

地域の会



第94回定例会 (柏崎原子力広報センター)



▲第93回定例会 (柏崎原子力広報センター)

第5期 地域の会委員

平成23年5月1日から2年間の任期で第5期の地域の会がスタートします。

No.	委員氏名	再任	No.	委員氏名	再任
1	浅賀千穂	○	14	高橋優一	○
2	会長 新野良子	○	15	滝沢茂義	○
3	池田知明	○	16	竹内一公	
4	石坂泰男		17	武本和幸	○
5	伊比智	○	18	武本昌之	
6	川口寛	○	19	田中貞子	
7	桑原保芳		20	徳永久行	
8	佐藤幸子		21	中沢洋一	○
9	佐藤直弘		22	前田弘実	○
10	副会長 佐藤正幸	○	23	三井田徳之助	○
11	三宮政邦	○	24	吉野信哉	○
12	高桑千恵		25	渡辺芳樹	
13	高橋武	○			

五十音順、敬称略

推薦団体

荒浜21フォーラム
柏崎エネルギーフォーラム
柏崎刈羽原発反対地元三団体
柏崎市 (旧柏崎市分、旧西山町分)
柏崎市コミュニティ推進協議会
柏崎商工会議所
かしわざき男女共同参画推進市民会議
刈羽村 (刈羽エネルギー懇談会、刈羽村区長連絡協議会、刈羽村商工会、原発問題を考える刈羽西山住民の会、原発反対刈羽村を守る会)
協同組合ニューエネルギーリサーチ
くらしをみつめる・・・柏桃の輪
原発問題を考える柏崎刈羽地域連絡センター
社団法人柏崎青年会議所
高浜地区町内会
ブルサーマルを考える医療者の会
ブルサーマルを考える柏崎刈羽市民ネットワーク
松浜地区町内会
連合新潟・柏崎地域協議会

(五十音順)

平成23年4月30日をもって退任された方

天野 巖、鬼山應人、上村美佐子、久我重雄、関口美智子、高橋義範、萩野武夫、牧 藤一、宮島洋一 (五十音順、敬称略)

CONTENTS

第93回定例会
7号機の制御棒のひびわれなどについて質疑応答 ……………2

第94回定例会
福島第一原子力発電所事故に対する委員の意見等の表明…3

発電所を巡る主な動き
地域の会に寄せられた声「みんなの広場」……………4

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会 (「地域の会」)

柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。それが事故無く稼動することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の思いです。

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

地域の会 概要

- ①会員は、柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体および地域の推薦を受けた25名の委員で構成。任期は2年。
- ②会の任務：(1)原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視
(2)事業者等への提言
(3)会での議論、活動等の住民への情報提供
(4)委員の研修
(5)その他会の目的を達成するために必要と認められる事項
- ③県、市、村、国、事業者はオブザーバー、又は説明者として出席
- ④会議の種類：定例会 (毎月1回)
臨時会 (必要に応じて開催)
※会は、原則すべて公開。

第93回定例会

7号機の制御棒のひびわれなどについて質疑応答

第93回定例会の概要

開催日	平成23年3月2日(水)
場所	柏崎原子力広報センター(研修室)
出席者	21名(欠席3名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村 保安検査官事務所(保安院) 地域担当官事務所(エネ庁) 東京電力(株)
内容	●前回定例会以降の動き ●7号機の制御棒ひびわれなど ●その他

前回定例会以降の動き、7号機の制御棒のひびわれ、制御棒の挿入性確認試験の内容及び点検周期を超えた問題について説明を受けて質疑応答などを行った。

〔7号機の制御棒のひびわれについて〕

(東京電力の説明)

7号機では、中越沖地震時に原子炉に装着されていた制御棒と使用済燃料プールに保管されていた制御棒の両方にひびを確認した。ひびの外観は両方とも同様な様相で、破面検査では延性破面(ひきちぎられたような破面)はなく、粒界破面(応力腐食割れの破面)であり、破断したり、制御棒挿入機能が阻害されることはない。

(質疑応答)

Q 4本だけを調べて応力腐食割れと断定してよいのか。
東京電力 ひびが発生した制御棒の代表的な特性をもったものを選んで調べている。



Q 地震前に使用していた制御棒と地震時に使用していたものを比べると、地震時に使用していたものがひびが多いので、地震の影響があるのでは。
東京電力 破面観察により応力腐食割れによるひびであり地震の影響ではないことを確認した。

Q 福島と柏崎刈羽で点検した制御棒は、熱中性子照射量が違うので比べられないのではないか。
東京電力 もともとハフニウムフラットチューブ型制御棒は柏崎の7号機用に開発した制御棒でそのほかの福島や柏崎刈羽の他号機のものとは類似設計のもの。使用実績も照射量も違うが、使用しているものを全て調べたもので比較の対象にはならないが、調査根拠として提示した。

〔制御棒の挿入性確認試験について〕

(東京電力の説明)

新潟県技術委員会が制御棒の挿入性に関する議論が行われたことを受けて、制御棒の挿入確認試験を行っている。今後も試験を継続しデータを取得する。

(質疑応答)

Q 制御棒挿入性確認試験は、どのような条件で実験したのか。実寸大の実験か。
東京電力 常温、常圧下で実験しており、原子炉の実際の状態とは違う。実際の原子炉に近い条件にするために水圧制御ユニットで圧力を下げて、実寸大で実験を行っている。

Q 制御棒の挿入試験でなぜ100%でなく90%挿入でチェックするのか。
東京電力 制御棒の挿入時間は原子炉の設置許可で号機毎に決まっており、1号機は90%挿入時間について決められている。

Q 制御棒を押し上げるのに必要な力はどれくらいか。
東京電力 制御棒1本は約100kg。高圧の窒素ガスで水を介して押し上げるが、1号機は7メガパスカル、2号機以降は12メガパスカルの圧力で設定されている。過去の試験で制御棒にかかる加速度は70Gと確認しているが余裕を持たせ100Gで評価している。

Q 窒素ガスの圧力が抜けた場合の対応はどうか。
東京電力 圧力が下がると中央制御室で警報が発生する。また圧力発生機器でも確認するとともに、パトロールで1日1回点検している。

Q 燃料集合体のたわみがどの位だと変形が戻らなくなるのか。
東京電力 金属の種類により異なるが、たわみの戻る範囲は全体の長さの0.2%なので4mでは8mm位

〔点検周期を超えた問題について〕

(東京電力の説明)

点検長期計画表により、現時点で点

検周期を超えている機器がないか、過去に点検周期を超過していたかを確認した。その結果、機器数258件で点検周期を超過していた。ダブルチェック、起動前の確認などの対策を行っていく。

(質疑応答)

Q 6月3日に保守管理は仕組みが適正で安全性に直接関わるものではないと国へ報告したのは東京電力本社か。
東京電力 柏崎刈羽、福島の状況を本社がまとめ報告した。安全上重要な機器に点検を超過したものはなかったが、ダブルチェックなどで点検漏れがないか確認をする。

Q 点検の具体的な方法を教えてほしい。また点検は誰が行うのか。
東京電力 機器単位ごとのデータベースと実際の点検記録をつき合わせて管理し、点検長期計画、点検記録の維持管理は東京電力、点検作業は協力企業が行う。また、東京電力は工事管理者として安全や被ばく線量の管理、点検記録の確認を行う。

Q 258件の機器に点検漏れがあったが、ダブルチェックする保安院は見逃したのか。
保安院 保安院は定期事業者検査や定期検査で安全上重要なものが機能するか検査する。それ以外の自主的な点検は事業者の責任で行い保安院では一つ一つ確認はしない。また、保安検査では仕組みがきちんと運用されているか、毎回テーマを決めて確認している。

Q 島根、浜岡発電所では過去1度も点検されていないものがある。保安院はもっと厳重に管理する必要があるのではないか。
保安院 今までの東京電力のやり方については、一部不十分なところがあり、

保安規定違反として改善を求めることを考えている。

Q 高圧ガス設備工事などで法律に基づく手続きがされていないが、今後どのように対応するのか。
東京電力 法律に基づく対象設備であることを気付かせていく仕組みが必要。今後は図面などに明記するなどして手続きのミスをなくしたい。

Q 東京電力にはコンプライアンスの観点から通報窓口などの機能はあるか。
東京電力 電話やメール、ファックスなど匿名で受付ができる。

〔各委員からの意見・要望〕

- 点検計画実績管理表などをコンピュータ管理するならば初期の入力ミスがないようチェックをやってほしい。
- 東京電力は市民に安心を与えてくれない。安全安心は遠い。
- 公表することで次のミスなどがなくなり一生懸命やっってもらえるのではないかと思う。
- コンプライアンスなど機能しづらい部分があると思うが、問題を表にだせるようなシステムにしてほしい。



第94回定例会

福島第一原子力発電所事故に対する委員の意見等の表明

第94回定例会の概要

開催日	平成23年4月6日(水)
場所	柏崎原子力広報センター(研修室)
出席者	20名(欠席4名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市 保安検査官事務所(保安院) 地域担当官事務所(エネ庁) 東京電力(株)
内容	●前回定例会以降の動き ●委員意見等表明 ●その他



前回定例会以降の動き、福島第一原子力発電所事故のこれまでのあらましについて説明を受けて、委員が意見表明などを行った。

【委員の意見等の表明】

事態の早期終息を望む

- 被災された住民や過酷な作業を続ける作業員のためにも一刻も早く今の状況を終息してほしい。
- 日本の経済、生活を揺るがす事態が起きている。東北と日本が復興すること、東京電力に早く立ち直ってもらいたい。
- 再び福島原発のような大惨事を絶対に起こしてはならない、切に願う。
- 原子炉の安定と放射性物質の外部流出停止、復旧・復興に向けた取り組みを世界に発信できるように東京電力に取組んでもらいたい。
- 東京電力はいつまで誰に謝罪しているのか。今避難している人だけでなく、子や孫がその土地に住めなく

なるかもしれない事態への謝罪はあるのか。多額な交付金や固定資産税は、今回のリスクとの妥当性があるものなのか。

作業員・被ばく管理

- 命がけで現場の作業されている人たち、二次的被害を被らぬように復旧を進めてほしい。
- 作業員への被ばく管理をしっかり対応できないか。
- 放出された放射性物質の放射線量は風向きの影響を受けやすく、避難指示が出ている20km圏内の外側でも高くなる可能性がある。実際の汚染状況に応じた避難指示が必要。
- 想定外の地震、津波というのが本当に想定外であったのか疑問。
- 国を挙げて原発を推進しているのに想定外のことが起きたで許されない。
- 東京電力は想定を超える大津波が発生する確率を2007年には既に評価していたという報道がある。想定外とは言えないのではないか。

責任の所在

- 予想外であったとしても原子力発電所は常に安全の上に安心が担保されていないなければならないことを国や事業者も考える必要がある。
- 原子力安全・保安院の許可の下で放射能汚染された水を海に放出したことがスムーズに伝わっていなかったことが国内外で問題になっている。世界中から支援を受けていることを十分に考えて対応してほしい。
- 防災計画上では、有事の際、国の原子力災害対策本部長である首相から住民に情報や指示が届くまで幾つかの段階を経ていた。この過程を明らかにして住民に示してほしい。
- あれだけ原子力防災訓練をやっているのに全くそれが生かされていない。非常に不満であり、不安。
- 子どもや孫に負の遺産を残したくないと放射能の怖さを訴え続けてきたが、国、保安院、事業者は安全だ、日本の技術は他国より数段上などと返答してきた。まさかこのような状況になるとは思っていなかった。
- 今回の事故の一番の要因は津波評価の誤り。どういう経緯で誰が提案し、どこが決定したのか責任の所在を明らかにするべき。経済コストを優先するような組織が今も残っているならば今後同じことが起きる。
- 国の基準を設定した人とその組織が責任を取るといって体制を作ったほしい。
- 国、保安院、東京電力の報道内容に統一性が見られない。筋を通した報道をしてほしい。
- 国際原子力機関は過酷事故を想定した安全対策を世界的に求めたが国は重大事故は起きないとして対策を採らなかった。原発は安全だという建

前に捉われず危険性を国民に正直に語る事が大切。

地震列島の日本で原発を運転することの評価が甘すぎた結果である。

今後の原子力発電

原子力に対して推進の立場で発言をしてきたが今でもその立場は全く変わらない。原子力は必要。原子力発電の必要性も含め電力の確保と世の中の安定とを考える時が現実になってくる。

計画停電の影響は経済に大きなダメージを与えている。原子力発電は必要である。しかし非常に危険性をはらんでいることも同時に考えなければならぬ。

エネルギー基本計画と合わせて大綱の見直しを行うことは必要。

経済云々という話もあるが、まず放射性物質放出、流出を止めた上で計画停電という順序を踏んでほしい。稼働中の原子力発電所をまず止めて、今一度安全性を確認してほしい。

現在稼働している原子力発電所を早急に総点検し、甘い基準を改め、地震国日本の実情に即した新しい基準を定める必要がある。

電気の無い生活は考えられない。安全を確保して運転を継続してほしい。深刻な事態が現実となった以上、国は省エネ、新エネの対応策を立て、対策が出来次第、運転を停止すべき。

原子力の進退が問われている。必要悪という意見もあるがこの経験を踏まえてより良いものをつくってほしい。

津波に対する柏崎刈羽発電所の対応

福島では想定の上の津波だったので柏崎刈羽では10m以上の津波

に対応できなければ安心できない。非常用発電機を原子炉建屋に設置してもその燃料の供給はどうするのか。津波と地震が同時に起きることを想定してほしい。自然の猛威にタフでシンプルに対応できる対策を望む。

柏崎刈羽原子力発電所は絶対に安全だという施設を造ってもらいたい。この災害で人材も機材も手薄。4年前の中越沖地震で損傷を受けている柏崎刈羽原子力発電所が、また大きな地震に襲われたら大惨事になりかねない。一刻も早い対策が必要。

今後の地域の会について

原子力発電に対し、多くの問題が山積している。地域の会が今後どのように活動を進めていくのか見守っていききたい。(退任する委員)

今後この会が今まで以上に透明性の確保を確立していくことを望む。

【質疑応答】

Q 福島第一原子力発電所の20km圏外で放射線の積算線量値が、20km圏内の値に比べ高い所がある。なぜ避難指示が出ていないのか。

保安院 屋内での数値や放射能の減衰など総合的に勘案し、原子力安全委員会などの専門家と協議して決定されると聞いている。

Q 基準となる津波の高さの決定は誰が行うのか。

東京電力 東京電力が国に申請をして国から許可を受ける。

保安院 東京電力の申請に基づいて国の原子力安全・保安院の審議会が審議、その結果については原子力安全委員会がダブルチェックし決定される。

発電所を巡る主な動き(2月3日~4月6日)

- 2月3日 保安院 5号機の耐震安全性について原子力安全委員会へ報告
- 4日 1号機 可燃性ガス濃度制御系の再循環流量調整弁動作不良の調査結果について(統報)公表
- 7日 保安院 平成22年度第3四半期の保安検査結果等について原子力安全委員会に報告
- 保安院 刈羽村議会に5号機の安全性の確認結果等を説明
- 8日 保安院 柏崎市長及び柏崎市議会に5号機の安全性の確認結果等を説明
- 10日 新潟県 安全管理に関する技術委員会開催
- 14日 保安院 6号機の第3回定期事業者検査の実施体制についての評価を公表
- 15日 5号機の保全計画の変更届出について公表
- 5号機の総合負荷性能検査の受検日程について公表
- 柏崎刈羽原子力発電所における高圧ガス保安法に基づく工事手続きに関する新潟県への届出について公表
- 16日 保安院 5号機の安全性の確認結果等についての新聞折込みチラシを配布
- 新潟県 原子力防災訓練事後検討会開催
- 18日 保安院 東京電力に対して5号機の定期検査終了証を交付
- 保安院 設備健全性評価サブワーキンググループ開催
- 新潟県中越沖地震後の5号機の営業運転再開について公表
- 22日 6号機 原子炉建屋(管理区域)ポンプ室内の床面における放射性物質による汚染の確認について公表
- 23日 新潟県 技術委員会(設備健全性、耐震安全性に関する小委員会)開催
- 24日 新潟県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認
- 28日 柏崎刈羽原子力発電所における高圧ガス保安法に基づく工事手続き漏れの原因と再発防止対策について公表
- 原子力発電所における点検計画に関する調査結果および原因と再発防止対策について(最終報告)公表
- 3月2日 保安院 東京電力に対して点検周期を超過した機器に関する根本的な原因究明及び再発防止対策を指示
- 8日 新潟県 技術委員会(設備健全性、耐震安全性に関する小委員会)開催
- 9日 6号機の営業運転再開について公表
- 11日 新潟県 技術委員会(地震、地質・地盤に関する小委員会)開催
- 新潟県 平成22年度第3四半期の環境放射線監視結果を公表
- 新潟県 福島第一原子力発電所の事故を受け、県内の放射線監視体制を強化
- 柏崎刈羽原子力発電所で発生する貝殻類の資源化について公表
- 地震発生後のプラントの状況について(第1報~第6報)公表
- 12日 地震発生後のプラントの状況について(第1報~第5報)公表
- 16日 3号機サービス建屋排気口および5号機主排気筒からのヨウ素の検出について公表
- 20日 新潟県知事、柏崎市長、刈羽村長が東京電力に安全対策の見直しについて申し入れ
- 新潟県、柏崎市、刈羽村からの柏崎刈羽原子力発電所の安全対策等に対する要請文書の受領について公表
- 24日 補助建屋(管理区域)におけるけが人の発生について公表
- 柏崎刈羽原子力発電所の排気筒などにおける微量な放射性ヨウ素の検出について公表
- 30日 保安院 東京電力に対して福島第一・第二原子力発電所事故を踏まえた発電所の緊急安全対策を指示
- 東北地方太平洋沖地震をふまえた発電所の緊急安全対策の実施に関する指示文書の受領について公表
- 東北地方太平洋沖地震をふまえた柏崎刈羽原子力発電所の津波対策の検討状況について公表
- 4月1日 建設中の固体廃棄物処理建屋(非管理区域)におけるけが人の発生について公表
- 柏崎刈羽原子力発電所の排気筒などにおける微量な放射性ヨウ素およびヒ素と思われる放射性物質の検出について公表

※号機のみ記載は柏崎刈羽原子力発電所分
※詳細は、各機関のホームページをご覧ください。
■色は東京電力の動き ■色は行政の動き

地域の会に寄せられた声 みんなの広場

地域の会の臨時会を傍聴 国も世界も原発依存から新エネルギーへの転換を!

柏崎市 桑山 史子 さん

私は、東日本大震災後、悲痛、恐怖、心が折れそうです。報道は、地震津波災害から、福島第一原発震災へ、東電や国への怒りを抑え、各新聞に赤線を引いています。臨時会を傍聴、新野会長の適切な進行で、東電、保安院の説明後、意見交換、意見書を総理や関係者へ提出と聞きました。(視点に掲載)

原発はクリーンなエネルギー、国策で安全だ、柏崎の発展のため、外部への放射能漏れなし、と信じ込まされてきました。中越沖地震で、原発は停止しても、不安は募っていました。世界観測史上最大級の衝撃的な福島原発の、各号機の無残な姿や、過酷な情報に恐れ、事態収束への動きに一喜一憂しています。

柏崎は、原発で、経済や生活が潤うとか、東電は津波襲来に備え設備、防災工事も進めています。不安は尽きません。福島では、原発作業員、故郷を捨てる避難民、農漁業の衰退、雇用、観光、教育、福祉、課題は山積みです。

柏崎の恵まれた自然を守り、人間が作った放射性物質で、子や孫、人類に不幸がないよう…。原発依存から、新エネルギーへの転換と、世界に注目され、支援を受けている日本が、今こそ踏み出すべきです。自然エネルギーの研究は進行中、子供たちへの新エネルギー教育、実用化には、時間と資金が必要です。それでも最近、私は、エネルギーの転換への胎動を強く感じ、国民的議論の場の必要と、国には原発依存体質を改める、政治的決断を求めたいのです。

福島に柏崎を重ね、復興へのエールを送りながら、地域の会の活動に期待し、世界一の原発基地から、市民も素朴な声をあげるよう願っています。



原子力発電に関することについて

柏崎市 今井 勇 さん

私は柏崎刈羽原発から約10キロ圏内に住む住民です。今回の福島原発の事故があって始めて深く感心を抱きながら、情報誌「視点」を拝見させていただきました。私はかねてから原発の持つ意味について、それ

なりの理解をもちつつ、見つめてまいりました。ただ今回の福島の事故を通してその惨状を見るにつけ改めてその安全管理のずさんさに気がついたのであります。安全とは何でしょうか?幸い地震津波の被害が無く、住む家があっても避難命令の基、避難所を転々としながらようやく柏崎の友人を介し我が家の別宅に辿り着き、仮住まいしている避難者を見るにつけ、気の毒でなりません。こういう事態にその方々は誰に苦情を言うでなく、ただただ途方に暮れているのが実態です。「衣食住」があって安全と言えるのではないのでしょうか、国破れても「山河あり」ではないのでしょうか?現時点で原因は「想定外の地震と津波で外部電源の遮断に加えて予備電源が機能を喪失したこと」とありますが、これが原因でしょうか?「真の原因」ではないはず。どうか真剣に原因追究をして処置対策(防潮壁や電源車等々)に終わることなく、真の原因に対し「ハード対策」と「ソフト対策」に分け「恒久安全対策」を他人事とすることなく柏崎刈羽原発にも早急を実施することを望むものです。

「視点」では皆様のご意見をお待ちしています。宛先は下欄住所まで、またメールでも受付けております。

今後の「地域の会」定例会の開催案内

第97回定例会

日時:平成23年7月6日(水)午後7:00~
場所:柏崎原子力広報センター(研修室)

第98回定例会

日時:平成23年8月3日(水)午後7:00~
場所:柏崎原子力広報センター(研修室)

※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、詳しくは事務局にお問い合わせ願います。

会は公開で行われています。傍聴はお気軽にお越し下さい。

地域の会ではホームページで活動の全てを公開しています。

ホームページでは活動状況をタイムリーにお知らせすると共に、会議録、会議資料の全文を公開しており、資料をダウンロードすることもできます。

また、ホームページおよび地域の会に対するご意見・お問合わせについて、ホームページ上からも受け付けています。

<http://www.tiikinokai.jp>

編集後記
東日本大震災から、2ヶ月以上経過したが、福島第一原発の事故終息が、なかなか見えてこない。1号機の核燃料の損傷は、津波の襲来4時間後にはじまり、約15時間後で原子炉圧力容器の底部に燃料の大半が溶け落ちる炉心溶解が起きていたことには驚かされる。
5月16日、震災直後の原子炉の状況を示すデータや、運転員が刻々と変化する事態に対応した様子がかかる当日誌などが公開された。それにより、1号機では、非常用復水器系が自動起動したものの、約10分後には停止、その後手動起動の試み、ベント操作のようす、津波後の外部電源喪失の状況が伝わってくる。もっと早く、いろいろなデータなども、公開すれば良いと思う。菅首相がようやく「原発事故被災者の支援には、最後の最後まで国が責任を持つて対応する」と語った。着実に実行を願う。日本の、世界の技術を駆使して一日も早い終息を願いたい。
(運営委員 川口)